

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	吹田市立佐竹台小学校校舎及び吹	階数	地上3F、地下1F
建設地	吹田市佐竹台4丁目	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、法第4	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年6月26日
敷地面積	18,295 m ²	作成者	松田 恒彦
建築面積	577 m ²	確認日	2019年6月27日
延床面積	2,088 m ²	確認者	後藤 圭二

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	86%
③上記+②以外の	86%
④上記+	86%

46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	2.6
温熱環境	2.0
光・視環境	3.8
空気質環境	3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	3.4
耐用性	2.9
対応性	3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

建物外皮の	5.0
自然エネ	2.0
設備システ	4.3
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

水資源	2.6
非再生材料の	3.0
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	3.5
地域環境	2.4
周辺環境	2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	断熱性高い材料を使用している。また、給排水配管は耐用年数長い材料を使用している。	その他 特になし。
Q1 室内環境	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー	断熱性高い材料を使用している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率86%広告物照明を設置しない。
Q2 サービス性能	給排水配管は耐用年数長い材料を使用している。	
LR2 資源・マテリアル	躯体は分離しやすいようにLGSを使用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0110

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	吹田市立佐竹台小学校校舎及び吹田市立佐竹台留守家庭児童育成室増築工事					
	建設地	吹田市佐竹台4丁目					
	用途/区分	学校(小中高)					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					4	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

報告しない

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.5	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	4.3	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		